



平成 29 年度 教育行政執行方針

子ども達が自信を持って自分の人生を切り拓き、 より良い社会を創り出すための力を学ぶ環境づくり

豊浦町教育委員会教育長 佐々木 浩治

I. はじめに

平成 29 年豊浦町議会定例会 3 月会議の開催にあたり、豊浦町教育委員会の所管行政の執行に関する主要な方針について申し上げ、町議会並びに町民の皆様方のご理解とご支援を賜りたいと存じます。

昨年 12 月に中央教育審議会から出された新学習指導要領についての答申によりますと、これからの社会においては、情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えた速さで進展するであろうと述べられています。このように変化が激しく将来の予測が困難な時代においても、教育に求められているものは、子供たちが自信を持って自分の人生を切り拓き、より良い社会を創り出すための力を確実に育てていくことであります。そのためには、学校が社会や世界に向き合い関わり合うなかで、多様な人々とつながりを持ち学ぶことのできる環境づくりを整えることが重要であります。そして、これからの子供たちが身に付けるべき資質を地域の方と共有し、地域の人材や環境、さらには産業などと連携を図り、それらを教育活動に取り入れる「社会に開かれた教育課程」をつくることが求められています。

また、社会教育においては、生涯学習社会の実現を標榜し、町民が生きがいを求めて活動する地域づくりの促進や生活化を目指した生涯スポーツの推進及び芸術文化活動の振興に努めるとした 5 カ年の社会教育中期計画に沿って取り組んでいるところであります。しかしながら、本年度が最終年度となっており、この間の推進事項の達成状況などを検証し、同じく最終年度となる教育振興基本計画とともに新たな社会教育中期計画を策定してまいります。

以下、重点施策について申し上げます。

II. 重点施策の展開

1. 学校教育の充実について

学校教育については、子供たち一人一人が学ぶ楽しさを知るとともに、学ぶ意欲を持ち、自ら学ぶ力や考える力など、社会を切り拓く力をバランスよく身に付け、変化の激しい時代を生き抜いて

いくための「生きる力」を育む教育に取り組んでまいります。

本町における子供たちの基礎的な学力については、今年の全国学力・学習状況調査を見るならば、小学校では算数 A、中学校では数学 A が全国・全道平均を上回っているものの、国語 A B、算数数学 A B の 4 教科平均では、小学校・中学校とも全道平均と同様となっています。このことについては、各学校が取り組んでいる日常の授業実践の改善のほか、本町の特色ある教育活動として取り組んでおります小中一貫教育などの取組の成果であり、今後におきましても、これらの取組を継続して行うとともに、習熟度別少人数指導や一つのクラスに複数の教員を配置して授業を行うチーム・ティーチングなど、個別指導の充実に努めてまいります。また、補充学習の充実については、町内各学校とも放課後学習や長期休業中の実施に取り組んでおり、子供たちに「わかる喜び」を実感させ、意欲を持って学習に取り組んでいけるよう支援してまいります。

特別支援教育については、教育支援委員会における適切な就学支援により町内各学校において特別支援学級が設置されているところであります。特別な配慮や支援を必要とする子供たちに対しては、その子供の実態に応じた適切な指導や支援に早期から取り組むことが必要であり、その能力や可能性を伸ばし、自立させるとともに社会参加ができるようにすることが重要であります。そのためには、特別支援教育に関わる教員一人一人の資質を高めるために研修の機会を設けるとともに、関係する学校や福祉・医療等の関係機関との連携を深め、継続した特別支援教育の充実に努めてまいります。

2. 豊かな心と健やかな体の育成

子供たちを取り巻く環境が大きく変わり価値観が多様化する中で、子供たちに規範意識や公德心、自他の生命や人権を尊重する心、そして、思いやりの心や自然を愛する心などを育てるためには、家庭や学校、地域社会が連携して子供たちの成長を支えていくことが重要であります。

一昨年に豊浦町、そして豊浦町議会は、戦後 70